1班 平和学習成果発表

グループメンバー

・豊科南中学校　瀬下　深太
・豊科北中学校　丸山　初流乃
・穂高西中学校　野口　治起
・穂高東中学校　川北　歩
・三郷中学校　桐山　希望
・堀金中学校　小島　瑞奈
・明科中学校　木村　美央利

松本大学　平和創造研究会　渡邉　優月

グループの学習テーマ
『原爆投下から現在へ
ー広島の復興と平和への歩みー』



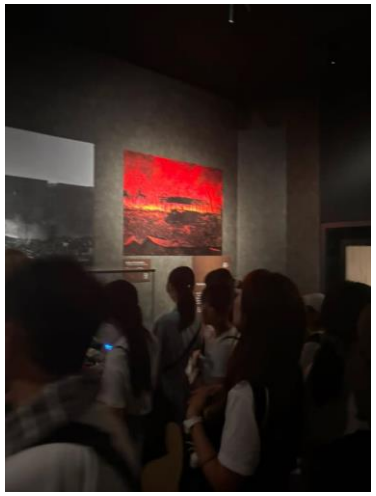
■グループで設定した学習の着眼点

・実際の被害

・どのように復興が行われていったのか

・被爆者の思い

広島平和記念資料館での見学













実際の被害

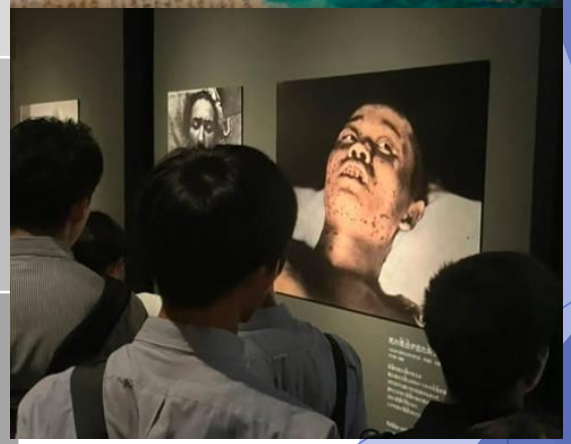
一瞬で広がった被害
・強烈な熱線　・大規模火災
・爆風　・建物の崩壊

助けを求める人々
・水を求める人々　・川へ向かう人々
・やけどで苦しむ人々
・「もう死んでしまたい」

放射線による被害
・発熱,吐き気,下痢
・髪が抜ける
・血の斑点が現れる ➡ **急性障害**

・体の倦怠感,疲れやすさ (ぶらぶら病)
・白血病　・がん　・ケロイド ➡ **後障害（原爆症）**





被爆から81年経った今でも苦しみは続いている……

被爆後と現在の広島の様子

被爆後



・瓦礫が当たり一面に広がっていた。
・鉄筋コンクリートの建物は残っているが、窓ガラスはなかった。
・原爆ドーム（旧広島県物産陳列館）があった。
・いつも見えない似島が見えた。
（被爆者の証言）

81年後

現在



・原爆で大きな被害を受けたと思えないほど、きれいな街になっていた。
・高いビルがたくさん並んでいた。
・平和を象徴するものが多かった。
（原爆の子の像,原爆死没者慰霊碑）
・路面電車が走っていた。

広島はどう復興したのか

学生・若者
復興作業に
協力していた

地域の人々
仕事・家族を失った
人々も携わった。

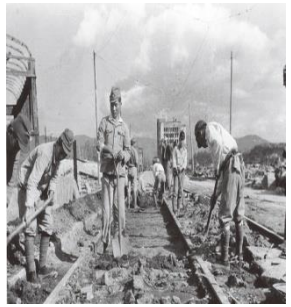
広島の復興

県内外の人々
他の地域からも
多くの人が支えた

外国から来た人々
他の国からも加わっ
ていた。

多くの人々の協力によって、広島は復興していった。

広島はどう復興したか



都市機能の復旧

・道路の再整備
・路面電車の再開
・電力の復旧



青空教室

・校庭に敷物を敷く
・被害の少なかった校舎の利用
・寺院を借りて授業



写真1

広島カープの誕生

・1949年設立
・資金額や解散の危機があったが、熱心に応援する多くの市民の募金により危機を脱した



被爆者団体の設立

・原爆症などの治療を求める
・差別を警戒し、被爆者として名乗り出ない人も……



海外で暮らす被爆者

・2003年から、被爆者援護法に基づく諸手当が支給
・現在は被爆者健康手帳や諸手当の申請ができるように
・医療費の支給

人々が再び「生きていく」ための環境を
長い時間をかけて少しずつ取り戻していった

写真1
出典　https://www.kenzobb9.com/wp-content/uploads/2023/06/-e1686957046416.png

現在

被爆者の平均年齢は**80**歳を超えている

↓

被爆者から直接話を聞く機会の減少

↓

次の世代に伝え、受け継ぎ、心を動かしていく



一方で、世界ではまだ戦争が起こっている…
私たちにできることは……？

私たちが平和のためにできること

「分断ではなく対話,対立ではなく協力」

平和祈念式典　国連事務次長より



①小さな声に耳を傾ける

②自分と違う人の意見を聞き、受け入れて話し合う

③困っている人がいたら手を差し伸べる

感想

　広島を実際に訪れて、81年前の戦争や原子爆弾の投下という悲劇は、紛れもなく実際に起こった出来事であり、見ていてとても心苦しい気持ちになりました。当時の日本では戦争のせいで満足に勉強ができなかったり、食べるものがなかったりと、今私たちが当たり前にできていることが奪われていました。今私たちが当たり前にできていることは周りの人々のおかげで成り立っていることを忘れずに生活していきます。そして、起こってしまったことは取り返せません。しかし、同じ悲劇をまた起こさないようにすることはできます。それを伝えるためにも、広島に実際に行ったことはとてもいい経験になりました。

瀬下 深太

　私はこの学習を通して戦争について深く学び、考えることができました。また同じことが起きないように後世に伝えていけるような活動をしていきます。

丸山 初流乃

感想

今回の平和学習を通して改めて平和の尊さと戦争はあってはならないものだということを感じました。実際に聞いた話や見て感じたことを多くの人に伝えていきたいと思いました。

野口 治起

広島を実際に訪れ、原爆の恐ろしさや、諦めずに復興を続けてきたからこそ今があること、そして人の強さとあたたかさを肌で感じ、当たり前の日々を尊く思いました。広島で見てきたことや学んだことを、このような発表だけでなく、多くの場面で伝えていきたいと思います。

川北 歩

自分の意見を持ち、周囲に流されずにそれをはっきりと伝えること、他者の考え方を尊重し受け止めることが大切だと思いました。そうすることで差別を減らすことができ、結果的に身近な平和に結び付きやすくなると考えました。

桐山 希望

感想

私は実際に被爆された広島を訪れた本当に知りたかった命の大切さや命の尊さ、みんなが口にする「平和」とは何であるのかを自分の心と耳と目で実感してくることができました。私たちが過ごしている毎日は当たり前ではないこと、被爆者のお話を聞ける最後の世代として受け継いでいく使命があること、などを聞き、改めて私たち一人ひとりが平和に向けた活動を行動に移す必要があるのだと思いました。世界の戦争などを私たちが無くすことはそう簡単ではないが、平和実現に向けてまずは学校生徒や家族などの身近な人に今回広島で学んできたことを広め、より多くの人に被爆者の思いが届くように工夫を考えていきたいです。

小島 瑞奈

被爆体験記朗読会や、被爆者の方のお話を聴き、核兵器や戦争の本当の恐ろしさや愚かさ、そして今ある日常が当たり前ではないことを知り、「戦争はダメ」だと改めて強く感じました。過去にあった悲しい事実には「生きたかった人々」「生き続けた人々」の思いがあるということに目を逸らさず、向き合うことの大切さをまずは身の回りの人に伝え、誰かの心を動かせるようにしたいです。貴重な経験をさせてもらえたこと、本当に感謝しています。

木村 美央利

ご清聴ありがとうございました！